

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 篠井小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 14人

② 算数 14人

5 留意事項

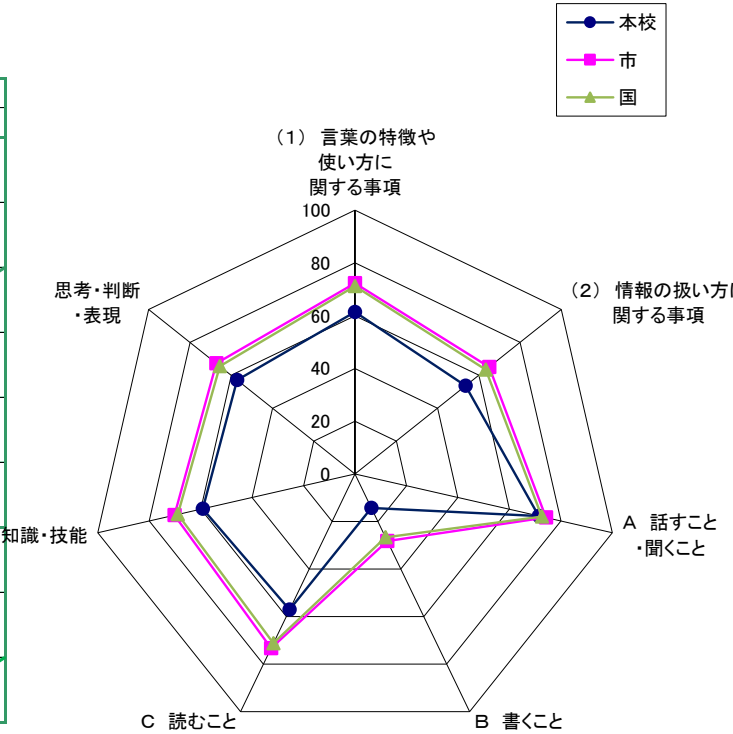
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立篠井小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	61.4	72.3	71.2
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	53.6	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	71.4	74.2	72.6
	B 書くこと	14.3	28.2	26.7
	C 読むこと	57.1	73.3	71.2
観点	知識・技能	59.2	70.2	68.9
	思考・判断・表現	57.1	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

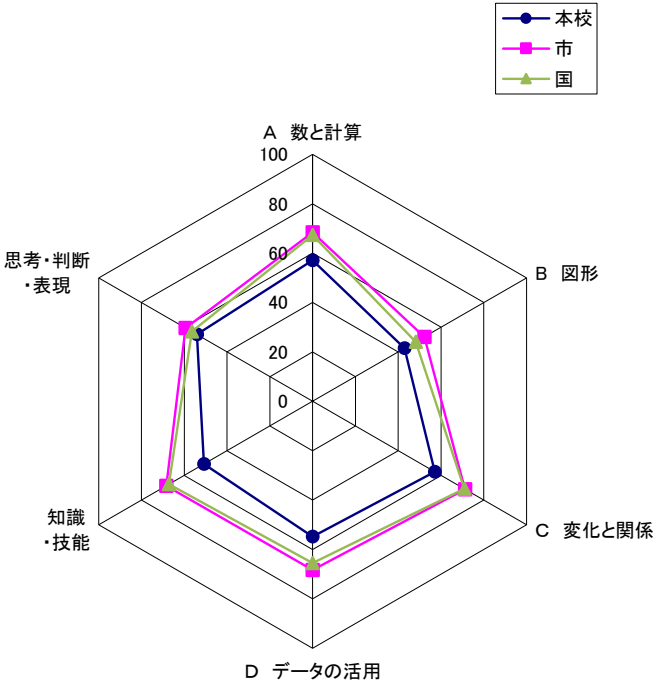
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	●平均正答率は61.4%で、国の正答率を下回った。 ●「敬語の使い方をまとめた内容として適切なものを選択する」問題で課題が見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字について、当該学年での新出漢字だけでなく、すでに学習した漢字を繰り返し学習する機会を設け、文章の中でも使用できるようにする。 ・敬語については、意味だけでなく、実際の場面に合わせて敬語を適切に使えるようにする。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	●平均正答率は53.6%で、国の正答率を下回った。 ●「情報をどのように整理しているかについて説明したものとして適切なものを選択する」問題で課題が見られた。	・複数の資料を比較し情報を精査する力や、目的や相手に応じて必要となる情報を選択する力を育成するよう指導していく。
A 話すこと・聞くこと	●平均正答率は71.4%で、国の正答率をやや下回った。 ○「どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く」問題がよくできていた。	・自分の考えと友達の考えを比較して聞き、自分の考えを深めていけるような学び合いの時間をつくるとともに、国語の授業以外でも話し合い活動を充実させる。
B 書くこと	●平均正答率は14.3%で、国の正答率を下回った。 ●「文章の空欄に、学校の米作りの問題点と解決方法を書く」問題で課題が見られた。	・今後も、行事作文やお礼の手紙等、書いて表現するという活動を日常的に行い、書く力を身に付けさせる。その際、目的に応じて、与えられた条件で文章を書くようにし、様々な形式の文章が書けるようにする。
C 読むこと	●平均正答率は57.1%で、国の正答率を下回った。 ●「メモの空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する」問題で課題が見られた。	・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができるようにする。

宇都宮市立篠井小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	57.1	68.4	67.3
	B 図形	42.9	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	57.1	71.2	70.9
	D データの活用	54.8	68.3	65.5
観点	知識・技能	50.8	68.4	67.2
	思考・判断・表現	54.1	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	●平均正答率は57.1%で、国の正答率を下回った。 ○「 $66 \div 3$ の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ」問題がよくできていた。	・今後も、基本的な計算の定着に向け、朝の学習や全校で取り組んでいる復習プリント(マスターカード)による復習を継続する。
B 図形	●平均正答率は42.9%で、国の正答率を下回った。 ●「テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前を書く」問題で課題が見られた。	・定規、コンパスなどを用いて、図形を書かせたり確かめさせたりする活動を充実させ、図形の性質を理解できるようにする。
C 変化と関係	●平均正答率は57.1%で、国の正答率を下回った。 ●「5脚の椅子を重ねたときの高さを求める」問題で課題が見られた。	・日常の具体的な場面に対応させたり、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりする活動を充実させ、割合の意味を理解できるようにする。 ・伴って変わる二つの数量については、比例の関係を見だし、未知の数量を求める際には、式や言葉を適切に使って記述できるようにする。
D データの活用	●平均正答率は54.8%で、国の正答率を下回った。 ●「二次元の表から、読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶ」問題で課題が見られた。	・グラフや表を読み取る学習において、タイトルや縦・横軸に着目して、どのような内容をまとめているのか、何が分かるのかを丁寧に読み取らせる。 ・他教科においても、グラフや表を読み取ったり作成したりする学習を積極的に取り入れる。

宇都宮市立篠井小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分にはよいところがあると思いますか」の質問では、当てはまると回答した児童の割合が92.9%であり、ほぼ全員であった。学級や学校全体でよいところを認め合ってきた成果であると考えられる。今後も、一人一人に目を向け、自尊心が高まる学級を目指していきたい。

○「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の質問では、肯定的回答をした児童の割合が国の割合を大きく上回った。話し合いを通して、考えを深める経験をしてきているので、引き続き対話的な活動を目的に応じて行っていきたい。

●「学校の授業以外に、普段、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」「家庭学習の課題として、どの程度PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり、英語を話す練習をしたりしていますか」の質問では、否定的回答をした児童の割合が、国の割合を上回った。授業の内容を家庭学習につなげていったり、ICTタブレット学習の課題を出したりして、学習する時間を確保していくよう声掛けをしていきたい。また、学年だよりやクラスルームに、児童が行った自主学習の例を掲示したり、懇談会等を通して、家庭への啓発もしたりしていく必要がある。

●「新聞を読んでいますか」「読書は好きですか」の質問では、否定的な回答した児童の割合が、国の割合を上回った。朝の学習時間に、進んで読書を取り入れたり、学校図書館司書や司書教諭とも連携して、お薦めの本を紹介したりなど、児童が本に興味をもてるような環境づくりに力を入れていく。また、家庭の協力を仰ぎ、家庭での読書時間を生み出せるようにしていきたい。

宇都宮市立篠井小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
読むことを通し、だれもが「できた！」「わかった！」「深まった！」を実感できる授業を目指して～主体的・対話的で深い学びのある国語の授業の実践～	・児童の主体的な学びを引き出す課題設定の工夫 ・宇都宮モデルを意識した授業の展開 ・対話的な学び合いの場の設定	・「国語・算数の授業内容はよく分かりますか」という設問に肯定的回答をした児童の割合が、85%以上で、全国の平均を上回っている。 ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」という設問に、肯定的回答をした児童の割合は100%で、全国の割合を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語では「書くこと」「読むこと」、算数では「変化と関係」「データの活用」の領域において、全国平均を大きく下回った。	・苦手とする領域を意識した指導の充実	・国語では、書いた文章の感想や意見を友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見つけるなどの学習活動を充実させる。また、考えをまとめる際には、単一の情報のみに基づくのではなく、複数の情報を比較したり、関連付けたりして検討するように指導する。 ・算数では、伴って変わる二つの数量が比例関係にあることを用いて、筋道を立てて考え、知りたい数量の大きさの求め方を説明できるように指導する。また、表やグラフなどを正確に読み取り、得られた情報を整理してまとめるといった機会を多く取り入れ、他教科でもデータの活用を図り、定着を促す。